



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アサド政権の政権基盤と2012年5月の人民議会選挙  
(中東情勢研究会第1回会合より)

中東調査会は、中東に関係する研究・実業分野の有志、及び当会研究員からなる「中東情勢研究会」を設け、中東情勢についての分析を行うこととした。研究会の成果は、『中東研究』など当会の出版物などを通じて公開する予定である。このかわら版は、過日開催された研究会第1回会合の概要である。

開催日時：平成24年7月2日（月）18時～20時、於：中東調査会

報告者：高岡豊（中東調査会研究員）

報告題目：シリア：2012年人民議会選挙から見るアサド政権の基盤構築の営み

出席者：青山弘之（東京外国語大学准教授）、錦田愛子（東京外国語大学助教）、溝渕正季（日本学術振興会、東京外国語大学）、他3名。中東調査会：中島勇、金子真夕、江崎智絵、山崎和美、高岡豊

#### 研究会概要

\* 高岡は、現在のシリアの反体制運動は「アラブの春」に連なる大衆運動としての命脈は尽きており、外国からの軍事干渉がアサド政権を打倒可能な唯一の方策であるとの認識を示した。そして、支持者・同盟者を政治参加させるという人民議会の機能に着目し、アサド政権がシリア国内で構築した強固な政権基盤を説明した。報告は、シリアにおける諸部族の政治・社会的影響力の象徴を概観した上で、ハーフィズ、バッシュアールの2代にわたるアサド政権が、部族などのシリア社会の構成要素を選択的に人民議会に進出させるという手法を通じて彼らを支持者・同盟者として処遇し、利益誘導や利害関係の調整を行ってきたと指摘した。諸部族への便宜供与としては、農業経営上の便宜、現金や車両の供与、人民議会への進出などが具体例として挙げられる。

\* 高岡は、以上の事実に沿って2012年5月に実施された人民議会選挙を分析した結果、2011年以来アサド大統領との会見やアサド政権支持会議に出席した諸部族の指導者多数が議員として当選していることが判明したと指摘した。そして、人民議会を介したアサド政権と部族をはじめとするシリア社会の構成要素との利害調整の仕組みが健在であると評価した。これに加えて、そのような仕組みがシリアの報道機関で公に報じられるようになったことにより、諸部族の政治・社会的役割が公然化したとの見解を示した。また、「野党」から選挙に参加し、議員に当選、その後入閣を果たしたカドリー・ジャミール議員は、非公認政党活動家としての経歴に加え、クルドの部族の後裔としての出身背景があることから、同人の躍進は無国籍クルド人への国籍付与など、クルド人やクルドの諸部族の地位の変動も関係するこ

とを指摘した。

\*最後に、高岡は現在のシリア情勢についての一般的な分析は、アサド政権高官の宗派的な出身を重視するあまり、同政権がシリア社会の多様な構成要素と関係を構築してきたことを軽視していると指摘した。そして、一般的なシリア分析が、アサド政権を「宗派的な少数支配」とみなしたことが、アサド政権の強靱さについての評価を誤らせたと問題提起した。

\*質疑では、この報告で取り上げた事例については、アサド政権による部族勢力の取り込みというよりは、人民議会選挙でシリア社会の多様な構成要素から満遍なく代表を出すことが可能になっていることでアサド政権の強健さを説明する方が適切ではないかとのコメントがあった。同様に、報告で取り上げた事例をアサド政権がシリア社会への秩序の提供、利害調整を行う機能として説明すべきではないかとの指摘があった。

\*この他、部族だけでなく、諸都市の有産階級・名望家の政治的影響力についての質問、アラブ諸国の政変の結果部族の存在が重要視されているリビアやイエメンの事例との比較の可能性について質疑が行われた。